

## 第5回庄原市学校適正配置検討委員会 議事録（概要）

平成28年10月17日（月）

9：00～11：27 本庁舎5階第2委員会室

### 【出席者】

（委員） 林委員（委員長）、藤谷委員（委員長職務代理者）、廣澤委員、定宗委員、藤崎委員、竹川委員、宮本委員、加藤委員、田坂委員、森永委員、井上委員、三上委員、堀江委員

（事務局） 牧原教育長、片山教育部長、山田教育総務課長、中重教育指導課長、宗綱総務係長、定光学校管理係長、加藤主任主事、荒平主任主事

〔傍聴者〕 2名（報道関係者）

（9：00 開会）

1 開会（委員長あいさつ・教育長あいさつ）

2 前回会議（H28.9.14開催・第4回）の議事録報告

**資料1** 第4回庄原市学校適正配置検討委員会 議事録（概要）

3 意見交換

（1）資料説明等

（事務局より資料2～4について説明）

**資料2** 市内小中学校における通学時間及び通学距離に関する調査結果

**資料3** 庄原市立中学校 部活動所属状況等

**資料4** 検討委員会における意見等の整理・集約表（第4回まで）

**資料4別紙** 小規模校における学校教育環境の要素別メリット・デメリット一覧

議長 　　ただ今の資料・説明について、質問や意見等はあるか。

委員 　　資料2について、スクールバスを利用して通学する子供の通学時間に60分と記されているところがあるが、これは冬期にはもっと時間がかかることはあるのか。

事務局 　　大雪等、バスの運行に支障が出るような非常時のことまでは想定していないが、冬期も含めた年間の平均的な時間を示している。

委員 　　資料3について、中学校の部活動加入率が全校で100%となっているが、私の子供が通った中学校では陸上部を指導する先生が不足していて、別の学校から指導する先生に指導に来ていただいたこともあった。

議長 　　この資料3については、現状で児童生徒が通学に困難を抱えているかどうか、部活動に影響を及ぼしていないかどうかという視点で見て、参考資料としていただきたい。

委員 　　資料4別紙では、それぞれこれまで委員会で検討してきた中で小規模校のメ

リット、デメリットが記されているが、学校経営上については、メリット欄に何も記されていない。学校関係の方は、小規模校のメリットについてどのように考えておられるのか。

委員 小規模校のメリットとしては、良いか悪いとは別として小回りが利き、学校経営の柱を立てやすいということが挙げられると思う。これまでの会においては、特にメリットとして挙げるまでもないことであると考えていた。

委員 ここには明らかにデメリットについて書かれていることが多い。先生方にしても、小規模校はメリットが少ないと思っておられるということなのだろうか。

議長 メリット、デメリットとして挙げにくいものもあるということだと思う。学校は与えられた条件の中で、最大限の努力をするので、小規模だからやりやすいという点が、メリットとして挙げるまでもないと考え、意見が出なかったのではないかと思う。

委員 学校からメリットについての意見がないのは、小規模校にメリットがないと思われているからだ、私の所属する団体でも話題になっていた。会議に出ていけば理解できるが、公開された資料だけ見ると、メリットへ意見がないということはどうかと思う。少しでもあるのならば、何か書いた方がよいのではないか。

事務局 この会議について、議事録は公開しているが、会議資料は公開していない。

委員 小規模校だと、学校状況を把握しやすいため学校経営のマネジメントサイクルができやすい。また、安全・安心の面では児童・生徒に目が届きやすいという点もメリットだとは思いますが、それが取り立ててメリットとなるかどうかは個々の考え方によると思う。

委員 小規模校は、目が届きやすいが職員も少ない。地域と連携を密にして取り組めるという点はあるが、全て良いこととは言いきれないかもしれない。

委員 言われるとおり、学校規模の面では、光と影の部分がある。メリットだと思っていることに、思わぬデメリットがあることもある。非常に論じにくい面がある。

委員 資料4別紙の2ページ目には、文部科学省の手引に記されているメリット、デメリットもまとめてある。

議長 これまでの会議の際には、文部科学省の手引に書かれているほどの意見が出なかったということなのかもしれない。この手引の内容も含めての本委員会の意見ということになるので、整理の仕方を工夫すればよいのではないか。

委員 小規模校と文部科学省の示す標準規模の学校を比べるのは違和感がある。標準規模が保てないから小規模校が存在しているので、小規模校についてメリッ

トを書こうとするのは、文部科学省の示す標準規模を否定することにならないか。

議長            メリット、デメリットという言葉だと良い、悪いという評価になりがちとなる。与えられた条件の中で、最大限の努力をするのが学校としての役目なのだろう。メリットとは「こういうことを活かしてやっていること」、デメリットとは「この条件を克服するために気をつけていること」という読み方をした方が良いと思う。

                  学校設置者はそういう学校側の努力も踏まえて取り組んでいかないといけない。本委員会の提言についても同じである。

## (2) 提言内容について(素案を基に内容検討)

議長            これまでの4回の会議では、現状把握や授業の様子、適正な規模・配置、通学時間などの意見交換を重ねてきた。こうした意見を基に、事務局で叩き台として適正な規模や配置の基本的な考え方などの提言案が作られている。まず、説明を受けて意見交換をしていきたい。

(事務局より資料5について説明)

**資料5** 「庄原市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する提言(案)」…これまでの意見や資料を基に事務局が素案として作成したもの)

議長            まず、資料について質問があれば発言いただきたい。

委員            今回についても、資料に書かれている内容が非常に多い。事前に会議資料をいただくことはできないのか。

事務局            毎回委員の皆さんの意見を集約し、また資料要望に応じる調査などを行って提示しているので少し時間がかかっている。次回以降は、できるだけ会議の前に資料をお渡しできるよう努力する。

議長            他に質問がなければ、意見交換に入りたい。まず、1～8ページ(はじめに、現状と課題、検討委員会の取り組み)の内容について意見交換をお願いしたい。

委員            学校適正配置を受け、校舎等が学校ではなくなった際、跡地の利用についても想定しておく必要がある。この委員会から提言を受けた後、教育委員会では地域に出向き説明をされるのだろうが、その時に今後の跡地利用のプランを示さないわけにはいかないだろう。

事務局            現在でも、過去の適正配置により廃校となり使わなくなった元学校施設が20ヶ所ある。これらの施設について、市としては地域で使っていただくことを優先しながら有効活用について検討しているが、これから統廃合を検討する学校について、現時点で具体的な用途等を示すのは難しい。

                  ただ、今後の地域との協議の中では必ず出る話なので、提言の中に一文でも盛り込んでいただくことも良いかと思う。

- 委員           この会議の中で、そこまで踏み込むことが必要なのだろうか。「おわりに」で触れるくらいでどうか。あまり細かなことになると、提言の段階で地域に、「うちの学校はなくなる」というような問題が先走るような気がする。
- 議長           このことは、今後教育委員会または市がどういう地域づくりを考えていくのかということにつながる事項であり、地域との協議の中では必ず出る話なので、「今後の検討をお願いします」ということを「付帯事項」か「おわりに」に入れるかどうかということだと思う。
- 委員           9ページには、「本市の実情を考慮しても」という記述があるが、どういう意味か。その前の1～8ページに記されている内容を読んでも、この言葉につながっておらず、唐突なイメージを受ける。
- 事務局       これは、これまでの委員会での議論において、児童が切磋琢磨しクラス替えができる規模が良いということから、1学級の人数は20人から30人、1学年の学級数は2学級以上が望ましいという内容であった。しかし、本市の実情を考えるとこれは難しい現状があるが、それでも単式学級が望ましいという意見が多かったので、このような表現としている。
- 議長           8ページまでのところが、これまでの議論が適正に整理されているか、これまでの意見を踏まえ無理なく提言へつながっているか、という点も見てもらいたい。
- 委員           5ページの中段ほどに、「メリット」、「デメリット」という言葉が出てくるが、これでは単に良い、悪いということになってしまい、学校経営の中で取り組んできたことが、薄い中身のことのように思えてしまう。
- 事務局       資料4別紙のことも含め、「メリット」や「デメリット」から受ける印象も考慮し言葉の修正を検討する。
- 議長           「デメリット」ではなく、「困難な状況」というような表現が望ましいのではないか。困難な状況下にあっても、学校現場では色々と工夫して取り組んでこられた経緯がある。
- 委員           「デメリット」というのは、とてもきつい言葉だ。小規模化を施策としてやってきたことならば「デメリット」という言葉でも良いのだろうが、そうではない中での取り組みである。それを「メリット」、「デメリット」という言葉で表現するのは、これまでそうした環境の中で実践を行ってきた諸先輩方に申し訳ない気持ちになる。言葉を変えたほうが良い。
- 委員           庄原市がこれまで取り組んでこられたことを、「メリット」、「デメリット」と書くと、関係者の努力を無にするイメージがある。言葉の問題だが、これをどう生かし、解釈するのか。大学の授業などでは「デメリット」ではなく、「危惧される点」などと表現することもある。

- 委員 委員会での議論においては、「メリット」、「デメリット」という表現で良かったと思うが、提言として表現する場合は、別な表現が良い。
- 事務局 皆様のご指摘のとおり、「メリット」、「デメリット」という言葉については、「良い」、「悪い」というような表現となる。関係者のこれまでの努力も踏まえて、もう少しやわらかい表現に直していきたいと思うが、本日この場でも、委員の皆さんから言葉の表現について意見をいただきたい。
- 委員 「メリット」、「デメリット」について、もっと細かく分けて記述したら、やわらかい表現とならないだろうか。
- 事務局 その点については、資料4別紙で「メリット」、「デメリット」について3項目に分けて記述しており、これを提言書の付属資料とする予定である。提言書へは、この内容を集約して掲載している。
- 委員 「メリットと思われる事項」というような、フエジーな表現にし、注釈としてこれまでの取り組みへの配慮や経過を書いてはどうか。「メリット」という言葉を変えても結局は同じことだと思う。
- 委員 これまで学校現場では、「デメリット」と思われることでも「メリット」に変えるような努力をしてこられた。この言葉を使う方が良いという意見が多ければ、デメリットとどう向き合ってきたかを記せばいいと思う。  
また、付属資料へ一覧をつける際は、委員会での意見と文部科学省が示したものを分けるのではなく、まとめて示した方がよい。
- 委員 言葉の表現について、この場で表決を行ってはどうか。その方が事務局も決めやすいのではないか。
- 委員 「メリット、デメリットとして想定される事項」であれば、「メリット」、「デメリット」という言葉を使っていいと思うが、最後にこれまでの関係者における努力についての表現が入ればいい。
- 委員 提言書を読む人には、「メリット」、「デメリット」という言葉は分かりやすいが、学校現場の思いを汲むと、やわらかい表現の方がいいと思う。
- 委員 「課題」という言葉を使うと、やわらかい表現となって良いのではないか。その中で、こういった「メリット」がある、「デメリット」があるというようにまとめれば良いと思う。
- 委員 この提言書は公になる書類なので、色々な人にスムーズに受け入れられる表現に変えるべきである。
- 議長 表決を取るべきものとは思わないが、委員会としては紋切り型ではなく、言葉の中に学校現場の思いを込めた表現としたい。

事務局 次回の会議までに言葉や表現について検討し、再度提案させていただきたいと思うが、委員の皆さんの方でも考えていただきたい。

委員 2ページの中段にある、現状の児童数で「最も少ない学校、学年、学級」については、複式学級の関係で学年と学級の児童数で数の逆転が起きている。先ほどの資料説明では口頭で注釈を付け加えられたが、資料に注釈を加えた方が良いと思う。

事務局 このことは誤解を生じやすいので、分かりやすく表現するよう検討する。

議長 それでは、9ページ以降（基本的な考え方・おわりに）について意見交換をお願いしたい。

委員 ここに記されている表現によると、小学校においては複式学級としない。複式学級は、好ましくないということか。

事務局 これまでの実態把握や意見交換などから、様々な事情を考慮しても単式学級編制が望ましいということである。

委員 複式学級はもうなくなるということになると、今複式学級を持つ学校の方々は、どのように思われるだろうか。

議長 本委員会は、今後庄原市の教育においてこういった形が望ましいのか、そのためにこういった学校の規模や配置が望ましいのかを提言するのが役目である。

この提言を受け、教育委員会では今後実際に適正配置に向けての手続きを行うこととなるが、本委員会としては適正配置での提言内容に、複式学級が存続するものとするのであれば、これをどういった言葉として表現するのかを検討していく必要がある。

委員 複式学級がなくなったとしたら、地域コミュニティがなくなり、過疎化が進むと思う。庄原市では、そのことをどう考えていくのか。地域に子供が帰ってこなくなることにどう向き合っていくのか。

事務局 子供が減少している中、今後一層学校が小規模化していくと、そのような問題が生じることは理解している。そういった現状や課題を踏まえて、本委員会から提言をいただき、教育委員会として方針や基準を考えていきたい。

議長 提言の中の附帯事項として、その基本となるような答えを示していくのだと思う。そして、政府の掲げている地方創生のテーマの中にも、地域とともに歩む学校の姿というものが謳われている。

今回、本委員会には色々な立場の方が集まっておられ、なかなか今後の方向性についてはまとまらない部分はあるかもしれないが、庄原に住んでおられる皆さんと庄原市の教育の方向性等について整理していきたいと思う。

委員 教育委員会が、今後の適正配置における手続きにおいて、基本とすることができる提言を作っていくのが良いのかと思う。基本となる事項と、その中で必ず配慮してもらいたいことをこの場で要望し、協議していけばいいのではないか。適正配置をするかしないかは、この委員会が決めることではない。

委員 今後1学年を30人として学校を配置すると、現在の状況で計算上では市内の小学校は9校しか残らなくなる。さらに平成34年の推計では、8校となる。地域にそれぞれ1校は残そうと思うと、いびつなことになるのではないかと。まだ今は提言の作成段階ということは理解できるが、提言後のこともしっかりと考え、提言を考えていく必要があるのではないかと。

事務局 これまでも、庄原の子供達を育てていくビジョンを練り、教育振興計画も作成して教育を推進してきている。今後も教育委員会として、そのビジョンのことを踏まえながら進めていかないといけないが、現段階で更に学校構想を練るため、1校1校全てに対し学校関係者や地域の方々の声を聞き、実態把握をするなど課題等をまとめることは困難である。  
委員の皆さんには、こういう学校規模、学校配置であれば、こういう教育ができるということを提言していただきたい。その中で想定されることがあるのであれば、附帯事項として盛り込んでいただきたい。

委員 私は学校の先生ではないので、1校に何人の子供がいた方がいいということは正直よく分からない。自分がこの会議に参加している意義は、地域の実情などについて意見を述べることにあると思っている。小学校と保育所は隣接しているケースが多いので、小学校が統合されると、保育所もなくなってしまうという危機感がある。  
単式学級が望ましいと示すことは、自分の学校がなくなると思わせることになるので、いかがなものかと思う。

議長 言葉の表現についても、どんどん意見をいただきたい。この提言案は、これまで委員会での意見交換を基に作成されたものであるが、学校の規模と配置を考えた時、複式学級もあることなのか、この段階で単式学級のみにしなければならないというものでもない。

委員 適正規模の理由へ、小規模校では教員配置や教科指導の面で、規模の大きい学校で行われるような授業を受けるチャンスが与えられないということを、提言に示すべきではないかと。

委員 今回の提言を受けて適正配置が行われたとしても、依然として小規模校が残っていくというのが、庄原市の実情だと思う。そういう状況下でも、今後庄原市としてどうやって学校を運営していくのかということを提言としてまとめていくべきである。

将来更に小規模化が進んだ時、適正配置を繰り返すのではなく、これまで積み上げてきた県北の教育の文化・伝統を活かしながら、困難な状況をどう乗り越え進めていくのかなど、この先、長い年月を見据えての考え方を作っていく

必要があり、そのことを提言の「おわりに」に示すのが良いと思う。

議長 素晴らしい教育を行っているので住んでみたいと思われるような、庄原市の教育の方向というものも「おわりに」に加えていければよいと思う。

委員 「本市の実情を考慮しても」という表現は、説明をいただいてもやはりよく分からない。この表現だと、どうしても単式学級にしないといけないイメージになる。「本市の実情を考慮すれば、複式学級もやむを得ない」となるのではないか。

委員 学校適正規模についての記述で、小学校、中学校の提言内容に関する表現が異なっているが、これを読む人が言葉の内容を素直に読み取ることができるかどうか。意味合いはとてもよく分かるが。

事務局 中学校では「1学年1学級の規模でもやむを得ない」としているが、小学校では「複式学級でもやむを得ないとは言えない」という意味を含めている。これはこれまでの委員会での議論の中で、複式学級の勉強より単式学級の勉強が望ましいという意見が多かったため、このように案としてまとめている。

議長 小学校、中学校それぞれの実情に合わせて言葉の表現を変えるのか、それとも統一するのか。プラスのイメージとなる言葉だと、受け取る側も夢が持てる。

委員 委員会として、提言の中で断言はできないと思う。今後、教育委員会で各地域に出向いて説明されることになるのだろうが、地域において必ず賛否が分かれる。地域の反対の声が強ければ、学校の適正配置はできないと思う。

提言としては、今回示された内容で良いと思う。言葉がどのように記してあっても、地域等との協議次第で、学校の適正配置が困難となることもあり、できない場合もあると考える。

私が住む地域で、過去に学校の適正配置を行った際、賛否両論はあったが、うまくとりまとめられ、きちんと学校は統合された。今回も教育委員会で適正配置後のフォローの面もしっかり考えをもって、取り組んでいってほしい。

委員 現在市内の中学校には複式学級はないのか？

事務局 広島県において、小規模校でも教員を配置する措置を取っているため、複式学級はない。

委員 そういった措置がある中、中学校においては、「やむを得ない」という表現で良いと思う。

委員 基本的には良いと思うが、「本市の実情を考慮しても」という表現を「1学年2学級以上にならない場合であっても」と変えてはどうか。市内に複式学級があるのを実情とするのであれば、委員会として複式学級を否定することになるので、そういった表現が適切ではないか。



委員 あいまいな表現は避けた方がいい。今後地域に出向いていった時に説明が難しくなる。このままで良いと思う。

委員 学校の規模は目指す目標であり、配置はそのための条件である。達成できないとしても、規模の方はこの表現で良いと思う。

議長 適正規模については、理由のところを手直しし、次回提案してもらいたい。(2)の適正配置についてのところはどうか。

委員 「通学区域の弾力化」を考えた時、大きい学校に子供が集まってしまうなど色々なことが考えられる。庄原市として目指す教育の方向とその弾力化が同じ方に向けたいが、そのようにならないかもしれないという懸念がある。

議長 「通学区域の弾力化」という文言は、指定学校変更という中で出てくるのか。

事務局 前回会議で議論いただいた通学区域の自由化も含めた広い意味である。今回、提言の素案としては、実際に子供・保護者から指定学校変更や区域外就学の要望という現実もあるので、「弾力化」という言葉を使っている。実際にこの言葉を提言に含めるかどうかは、今から協議・検討していただきたい。

委員 この弾力化を行ったら、次の年の児童・生徒数の想定がしにくくなる。提言の中に、「弾力化」という言葉を入れるのはいかがなものかと思う。

事実上、弾力化は既に行っていることであり、規模の小さい学校から大きい学校へ児童、生徒が流れていったら、庄原市が目的とすることの逆の現象が起こる可能性があるのではないか。

事務局 庄原市では指定学校変更、区域外就学の制度があるが、大規模校に行きたい子もいれば、小規模校に行きたい子もいる。他市町で、前年の〇〇月までに申請などをするといった条件を付して通学区域の弾力化を実施している例があるので、今回委員の皆さんに庄原市での実施を提案しているところである。

議長 「通学区域の弾力化」について、提言から削除すべきだという意見が出ているが、委員の皆さんはいかがか。

委員 「通学区域の弾力化」については、学校、保護者等、立場によってその受け止め方がバラバラになり、まとまらないのではないか。本委員会でも、弾力化については深い議論をしていないので、踏み込んだ見直しにつながるような記し方ではなく、もし記すのであれば、もっとシンプルに学校適正配置のイメージにつながる表現にする方が良いと思う。

議長 それでは、「通学区域の弾力化」についての一文を、小中学校ともに削除することよろしいか。

(異議なし)

議長            それでは、「通学区域の弾力化」についての一文を、小中学校ともに削除することとする。

                  続いて、「(3)特に配慮すべきこと(附帯事項)」ではどうか。個人的には、「地域コミュニティへの影響」という事項について、地域が学校を支えている、支えていくというイメージを訴えていってほしいと思う。

                  ①通学時間及び通学距離について、②通学手段及び安全確保について、③地域コミュニティへの影響について、というまとめ方はどうか。

(意見なし)

議長            「おわりに」の部分はどうか。

委員            小規模校、複式学級を持つ学校が取り組んできた良い部分は、地域とのつながりであった。学校教育を前に進めていく中で地域社会から受けてきた影響を考慮するということや、地域を学習の場にしたり、地域が学校に来られたりして、学習が成立してきたことを大切にして、という様な表現を、④でも「おわりに」でも良いので記述して欲しい。

委員            言われることは理解できるが、ここは具体的ではなく、ファジーな表現が良いと思う。現在でも、住んでいる地域と学校のある地域が異なるケースもあり、地域とはどの範囲を指すのか難しくなっている。具体的な表現としたら、適正な配置に制限が生じるケースもあるのではないか。

議長            地域に学校を残すという言質をとるものではなく、学校教育に対してお世話になってきた地域の方々の関心を向ける書き方が良い。場合によっては、地域へ貢献するという宣言をするような内容になっても良いと思う。

委員            学校にとっては必要なことなので、提言にそういった言葉が入ると、覚悟も決めやすいと思う。

議長            これまでの意見交換等も含め、意見・質疑あるか。

(意見・質疑なし)

#### 4 その他

- ・ 第6回検討委員会の開催日時等について

                  平成28年11月21日(月) 9:00 から に決定

                  内容は、第5回の会議にて提案された意見等を基に提言の素案を修正し、再度この内容について検討する。

                  資料は1週間前に送付できるよう取り組む。

(11:27 終了)

※終了後、平成28年10月29日(土)開催の「庄原市教育フォーラム」のチラシ配布。